■　校長室の窓辺から　■

石川県の学校では、入学式に爛漫の桜のイメージが強い。でも今年は既に満開、例年より幾分早い。新年度が始まって４日目。仕事の合間に校長室から外を眺めてみたが、中庭に桜は見当たらない。校地を隈なく歩いたわけではないが、赴任してまだ桜は２本しか見かけない。明倫高校には桜の名所はあるのだろうか？

用事があって職員室に向かうと、廊下ですれ違う生徒が爽やかな笑顔で挨拶をしてくれる。高校生らしい所作だ。「新しく来られた先生だろうか？」という好奇心がかすかに表情ににじむ。まだ、「はじめまして」の言葉も交わしていないのに、多くの生徒が受け入れてくれているのを感じる。新任者にはたまらなく嬉しい。

学校の責任者としての重責を感じている。でも、学校に来てみて、楽しみの方が大きくなった。あんなに素敵な挨拶ができる生徒たちと、それを指導している先生方、何とも心強い。生徒と先生がこれまで築いてきたものに敬意を払いつつ、さらに学校として成長していけるように努力を尽くしたい。

慌ただしく新年度の準備が進められている。校長室に戻り、窓際に立つ。視線を下ろすと早春に花開く水仙がまだ咲いているのに気付いた。今冬の大雪にもその下で春を待っていたに違いない。来年の雪解けに咲き揃う水仙を想う。生徒がどのように成長していくかを見ることに加えて、１年後の楽しみが一つ増えた。

挨拶の声が響く学校でありたい。笑顔の花咲く明倫高校でありたい。生徒も、先生も、保護者も、みんな一緒に。